

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	7
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー今年度の「小さな自然再生」現地研修会開催予告

今年度「小さな自然再生」現地研修会の開催地を皆様より公募し、応募者と企画について調整させて頂いた結果、全3回の開催内容がほぼ定まりつつあります。

現在、各研修会の開催時期やプログラムについて最終調整

中ですので、詳細が決定した研修会より、JRRN ウェブサイトやfacebook 等を通じて皆様にご案内させていただきます。

※以下の写真は企画調整で訪問した際に撮影したものです
(JRRN 事務局・和田彰・白尾豪宏)

第 15 回「小さな自然再生」現地研修会

- ◆開催時期： 2022 年 9 月～10 月頃
- ◆場所： 徳島県神山町・鮎喰川
- ◆共催： 一般社団法人神山つなぐ公社

水辺の小さな自然再生を通じて地域と川のつながりを深め、町をさらに元気にしていくためにできることは何だろう？ 町内を流れる複数の川の現場でできる小さな自然再生の手法を学び、合せて手づくりで実践します。



第 16 回「小さな自然再生」現地研修会

- ◆開催時期： 2022 年 10 月頃
- ◆場所： 京都府宮津町・大手川
- ◆共催： 京都府立宮津天橋高等学校フィールド探究部

災害復旧として住民対話により整備された親水公園を、地域のにぎわいの場として活用していくために何ができるのか？ 地元関係者と高校探究部のコラボでできる小さな自然再生について意見交換し、見直しをします。



第 17 回「小さな自然再生」現地研修会

- ◆日時： 2023 年 1 月 14 日 (土)
- ◆場所： 茨城県美浦村・霞ヶ浦
- ◆共催： NPO 法人水辺基盤協会

水質浄化施設として整備された小さな水路と霞ヶ浦本湖の連続性回復を目的に、半日でできる手づくり魚道を制作し、その機能や生物モニタリング手法について学び合います。



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

「リバフロサポートセンター」と二人三脚で流域づくりに貢献していきます

2022年7月22日(金)、JRRN事務局を運営する公益財団法人リバーフロント研究所内に、治水と環境とにぎわいが共存する川づくり・まちづくり・流域づくりに貢献することを目的とする「リバフロサポートセンター」が設立されました。

本サポートセンター設立の背景や目的、また概要については次頁の案内資料をご覧ください。

当面は、以下の4つのサポート窓口を設け、全国の流域づくりの担い手をサポートして参ります。

これまで JRRN が国内外で取り組んできた川づくりの普及促進活動についても、今後はリバフロサポートセンターと連携し二人三脚で進めてまいります。

(JRRN 事務局・和田彰)

多自然川づくりサポート

(サポート内容) ※旧：多自然川づくりサポートセンター

多自然川づくりについての情報提供、技術的支援、セミナー開催等を担います。



(紹介ページURL)

<http://www.rfc.or.jp/supportcenter01.html>

かわまちづくりサポート

(サポート内容)

かわまちづくり全般に関するお悩みについてご相談(制度・仕組み、事例、進め方、講師 etc.)を受付けます。



(紹介ページURL)

<http://www.rfc.or.jp/supportcenter02.html>

河川環境管理シートサポート

(サポート内容)

河川環境管理シートの作成や活用方法に関するアドバイス、講習会の開催等を担います。



(紹介ページURL)

<http://www.rfc.or.jp/supportcenter03.html>

小さな自然再生サポート

(サポート内容)

小さな自然再生の情報提供や進め方のアドバイス、研究会の運営等を担います。



(紹介ページURL)

<http://www.rfc.or.jp/supportcenter04.html>

リバフロサポートセンターの4つのサポート窓口

安全で豊かな河川と水辺、にぎわいのある地域づくりの実践をサポート

リバフロサポートセンターは、リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。

□ 設立の背景と目的：

公益財団法人リバーフロント研究所は、河川・流域の治水・自然環境・生態系、水辺のにぎわい、さらには健全な水循環系の視点から、これからの社会のあり方や価値観を提案し、その実現に向けた課題を見出し、施策提言・研究・技術開発・普及啓発などの活動を通じてその解決を図るとともに、現場実践、多様な主体との連携・協働を通じてスタンダードをつくり社会実装させることに日々挑戦しています。

当研究所が強みとするテーマに関連する情報、研究成果、技術等を社会に還元するとともに、行政職員・市民団体・技術者・研究者など全国の川づくり・地域づくり・流域づくりの担い手を支援する窓口として、新たに「**リバフロサポートセンター**」を2022年7月22日（金）に設立しました。

同サポートセンターは、これまで当研究所が事務局を務めている「多自然川づくりサポートセンター」や「日本河川・流域再生ネットワーク」の機能を引き継ぐとともに、「かわまちづくり」や「河川環境管理シート」などの支援体制を強化することから着手し、治水と環境とにぎわいが共存する川づくり・まちづくり・流域づくりの更なる推進に貢献することを目的とします。

□ サポートセンターの概要：

- ・所在地：東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階（公益財団法人リバーフロント研究所内）
- ・センター長： 中村圭吾 （副センター長：都築隆禎）
- ・4つの機能： 川づくり・まちづくり・流域づくりに関わる次の機能を担います。

- ①技術開発・普及……………新技術の開発及びそれらの普及啓発
- ②情報提供……………ナレッジ集約及び情報発信
- ③技術指導・地域連携……………研修会開催、講師派遣を通じた実務者等の人材育成
- ④国際協力……………日本の経験の海外普及及び海外知見の日本への還元

□ サポートセンターの体制：

リバフロサポートセンターは、テーマ別に4つのサポート窓口で構成され、今後新たなテーマの窓口創設も目指してまいります。また、どの窓口に相談すべきか分からないテーマについてもお気軽にお問合せください。



□ リバフロサポートセンターへのお問合せ：

サポートに関わるお問合せは、お気軽にメールにてご連絡をお願いします。email: supportcenter@rfc.or.jp
また、サポートセンター及び各サポート窓口の概要は以下のウェブサイトをご覧ください。

※リバフロサポートセンター：<http://www.rfc.or.jp/supportcenter.html>



第 63 話主人公 畑山 拓海

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川 (直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：茨城県恋瀬川)

「白昼夢」

いつのこと？：むかしむかし

どの川？：秋田の川



ある日、何でも無いときに頭をよぎる、現実とも空想ともつかない風景がいくつかあります。

月のような衛星が空を埋め尽くさんばかりにいくつも大きく映る明け方。30 秒もあれば一周出来てしまうような、草が低く茂り風が吹き抜ける小さな惑星のうえて、衛星に手を伸ばす小さな背。

あるいは大きな広葉樹林が茂っている一方で陽光がほどよく差し込む、森林の小道と、その奥にぽつんと佇む小さな小屋。

そういう景色の一つに、その底が見透かせるくらいに水は浅く、澄み切った川があります。それは少し薄暗い木々の間に、鯨が横たわったくらいの幅で流れています。川辺から一段上がったところには、木造の瀟洒なカフェがあります。現代には似つかわしくないが、煙突から細い煙を吐き出しています。

周囲に認められるために勉強して良い学校へ行って、いい企業に入る。お金を稼ぐために好きでも無い仕事を繰り返す。人に誘われたから付き合いで出かける。なんでそれをするのか。言葉に出来る目的が無ければ、それは非合理的のくくりで無駄なものにされる昨今では、これは無駄なものだろうと思います。事実、この景色に目的はありません。それを言葉で描写したこの文章にも、同じく目的はありません。この記事で稼げるわけが無ければ、言われたから書いているわけでもありません。たまたま機会が転がっていたものを拾って遊んでみたようなものです。しかし、本を読んだり音楽をつくったり、虫を捕ったりが好きな私はなんとなく、創造的な発想や考え、あるいはひらめきは、ひっそりと、じっくりとした一人の時間の中で浮かんでくるものだ、経験を通して思うのでした。

(次は福田皓輝さんにバトンを託します)

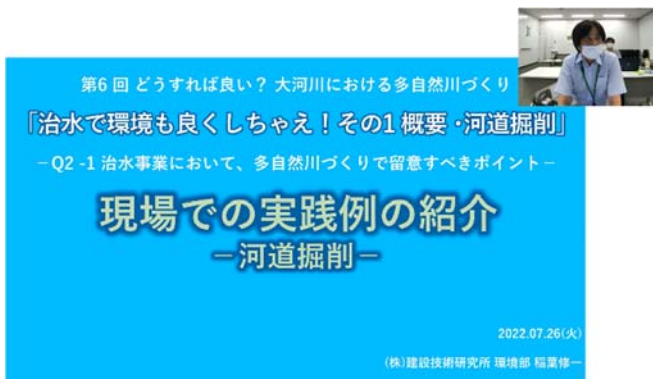
「リバフロサポートセンター」からのお知らせ(1) RiverFront Support Center

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

「大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～」 第6回目のウェブセミナーを開催しました！ 次回は9月下旬頃、開催予定です！

「多自然川づくりサポート」事務局（担当：金子祐）

■第6回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第6回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」を令和4年7月26日（火）に開催しました。

第6回目は、「Q2-1 治水事業において多自然川づくりで留意すべきポイントを教えて下さい」に関連して、大河川における治水事業を対象に、多自然川づくりで留意すべきポイントについて、「Q&A の概要と基本的な考え方」について国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課の金谷係長よりご説明頂き、主に河道掘削に関連した現場での実践例について、株式会社建設技術研究所の稲葉様よりご紹介頂きました。

参加申込者は、おおよそ行政関係者が4割、コンサルタント関係者が5割で全体の約9割を占めており、合計で約450名の方々に参加申込いただきました。参加者の皆様ありがとうございました。

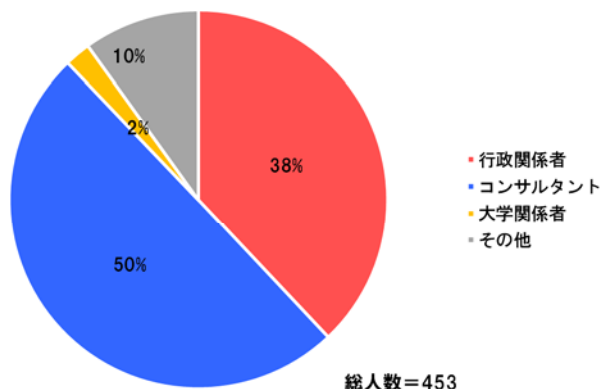


図 参加申込者の職種分類

＜第6回 ウェブセミナー開催概要＞

- 開催日時：令和4年7月26日 16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェビナー
(事前申込制、参加費無料)
- タイトル：「治水で環境も良くしちゃえ！
その1（概要・河道掘削）」
～Q2-1 治水事業において、
多自然川づくりで留意すべきポイント～
- プログラム：
 - ① 概要と基本的な考え方
講演者：国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課 環境保全係長 金谷 将志
 - ② 現場での実践例の紹介
講演者：株式会社建設技術研究所
環境部 稲葉 修一
 - ③ 意見交換
- CPD：1.0 単位（土木学会認定）

■次回開催予定、過去の講演動画の紹介

次回は9月下旬開催予定で調整中です。

また、過去の講演動画はリバーフロント研究所 HP にて公開中です。

次の開催案内、過去の講演動画等の詳細は以下の URL をご覧ください。

<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

■大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題を Question とし、これに Answer とし、答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本 Q&A のダウンロードはこちらから

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/tashizen/qa.html

「リバーフロントサポートセンター」からのお知らせ(2) RiverFront Support Center

亀島川での市民活動に参加・協働しました

亀島川は、東京都中央区の日本橋川と隅田川を結ぶ延長 1.1 km の荒川水系の一级河川です。江戸時代から河川物流等に利用されてきましたが、社会の物流が、鉄道、自動車等へ移行するにつれ、人々と亀島川の関係が希薄になってきたと言われています。

現在では、この亀島川等での水辺の賑わいづくりに市民の方々が取り組んでいます。そのいくつかはリバーフロント研究所も参加しているのでご紹介します。

① 亀島川のクリーンアップ

市民のボランティアによる、亀島川のゴミ拾い、「クリーンアップ活動」が毎月行われています。日ごろは下りられない川岸に降り、ヨシの植生帯の中のゴミを拾ったり、カヤックや SUP に乗って水面から流れてくるペットボトルや発泡スチロール等のゴミ拾いを行っています。



写真—1 亀島川のクリーンアップ

② 亀島川みずべまつり

まだ認知度の低い亀島川の水辺のすばらしさを多くの人々に知っていただくため、「水都東京・未来会議」と亀島川みずべまつり実行委員会の主催による「亀島川みずべまつり」が7月9、10日に開催され、リバーフロント研究所もお手伝いさせていただきました。当日は、好天にも恵まれ、2日間でおおよそ650名の参加者があり、SUPやカヤック、電気ボート乗船、ハゼ釣り教室、川沿いのまちなか探検を行う各種ツアーなど思い思いに亀島川を楽しみました。普段は座れない護岸に腰掛け、川面を渡る川風を感じながら都心の水辺のすばらしさを多くの方に体験していただくことができました。

「かわまちづくりサポート」事務局（担当：風間聡）



写真—2 ハゼ釣り教室



写真—3 水面でのアトラクション

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2022年7月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■「アユ漁体験と魚捕り in 都幾川・高麗川・越辺川」(2022年8月～10月) 案内

NPO 法人荒川流域ネットワークより、今年の都幾川、高麗川、越辺川をフィールドとしたアユ漁体験と魚捕りイベントのご案内です。

コロナ禍は続いているが、感染対策を考慮しながら都幾川と高麗川と越辺川で魚捕りを実施します。

地曳網や投網、タモ網を使って皆で魚を捕り、塩焼きと天ぷらにして味わいます。

投網の講習会や捕れた魚を紹介するミニ水族館も開催します。

マスクの持参など感染症対策をして、ご家族でご参加ください。

●日時 & 場所： 荒川流域

都幾川： 2022年8月11日(木・祝日)、10月9日(日)、各9:00～12:30

高麗川： 2022年8月21日(日)、9:00～12:30

越辺川： 2022年9月11日(日)、9:00～12:30

●参加費： 1000円

●主催： NPO 法人荒川流域ネットワーク

●協力： 武蔵漁業協同組合／埼玉西部漁業協同組合

●タイムテーブル、アクセスマップ、申込方法等：

以下のページ内の案内チラシ参照

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4060.html>

アユ漁体験と魚捕り

地曳網・タモ網で魚捕り。捕れた魚は皆で味わいます

2022年

都幾川会場
[日時] 8月11日(木・祝日)
[日時] 10月9日(日)
[場所] 二瀬橋(嵐山町)

高麗川会場
[日時] 8月21日(日)
[場所] 獅子岩橋(日高市)

越辺川会場
[日時] 9月11日(日)
[場所] 石今橋(埴山町)

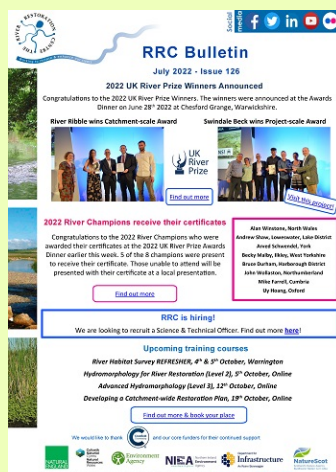
【集合時間】9:00
【開催時間】9:30～12:30
【参加費】大人、子供とも1,000円
【参加人数】先着40名
【定員】各日各持参下さい。

主催 ■ NPO 法人荒川流域ネットワーク
協力 ■ 武蔵漁業協同組合・埼玉西部漁業協同組合
申し込み先 ■ TEL 080-77904-5722 (鈴木)
■ mail: k.suzuki@ar-net.net
申し込みはメールをお願いします。

各会場の詳細は裏面にあります

【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」紹介



RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2022年7月号) が RRC 事務局より届きました。

本号では、2022年の英国河川賞と河川功労賞の受賞河川 & 受賞者の紹介、10月に開催する河川再生シリーズ研修会の案内、また河川再生に関わる人材募集案内等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4065.html>

【海外からの提供情報】

■「ECRR (欧州河川再生センター) eNEWS 最新号」紹介

NEWS, PUBLICATIONS & EVENTS

Content

- Applications for the 2022 European Riverprize are now open
- Freshwater fish biodiversity restoration in floodplain rivers requires connectivity and habitat heterogeneity at multiple spatial scales
- European Rivers Summit 2022
- Large Wood for Living Rivers
- 4th International Conference on Rivers



ECRR (欧州河川再生センター) の月刊 eNEWS の最新号 (2022年6月号) が ECRR 事務局より届きました。

本号では、欧州河川賞の応募開始、淡水魚の多様性再生の新刊書、また欧州河川サミット等の行事が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4053.html>

会議・イベント案内 (2022 年 8 月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■第2回 日本河川教育学会十勝大会

○日時：2022 年 8 月 21 日 (日) 9:00~17:00

○主催：日本河川教育学会

○場所：帯広市立豊成小学校 (北海道帯広市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3324.html>

■全国河川・水教育実践研究会

○日時：2022 年 8 月 22 日 (月) 9:30~16:00

○主催：日本河川教育学会

○場所：帯広市立豊成小学校 (北海道帯広市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3326.html>

■第14回 淡海の川づくりフォーラム

○日時：2022 年 8 月 27 日 (土) 10:00~16:15

○主催：第14回 淡海の川づくりフォーラム実行委員会 (事務局：滋賀県 土木交通部 流域政策局 広域河川政策室内)

○場所：現地会場 (コラボしが 21) とオンライン (WEB:Zoom) の併用

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3340.html>

■第14回 “いい川” “いい川づくり” ワークショップ

○日時：2022 年 9 月 3 日 (土) ~4 日 (日)

○主催：第14回 “いい川” “いい川づくり” ワークショップ
実行委員会○場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区)<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3331.html>

■ELR2022 つくば公開シンポジウム「Nature-positiveを実現させるにはー2030年にむけてー」

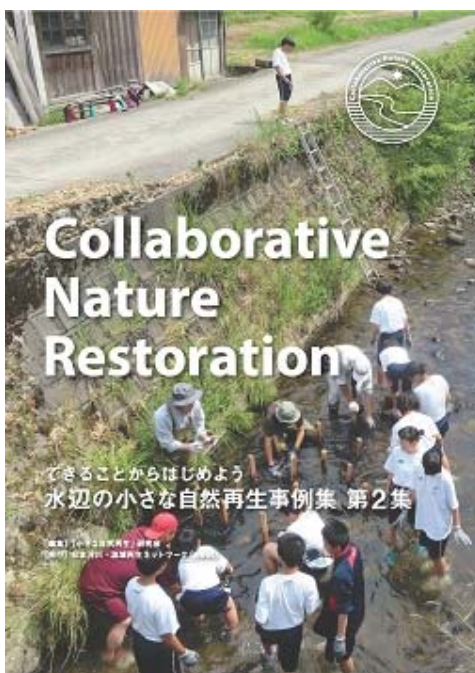
○日時：2022 年 9 月 21 日 (水) 13:30~16:30

○主催：日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会
3学会合同大会『ELR2022 つくば』

○場所：つくば国際会議場 (エポカルつくば) 中ホール、ウェブ配信あり

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3348.html>冊子等の紹介 *Publications*

■できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第2集



市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集の続編 (第2集) の印刷製本版を普及中です。

本事例集は、水辺の小さな自然再生に取り組む全国の担い手の皆さまに、活動の経緯や目的、実施体制、工法の説明や工夫した点、使用材料や工具、施工後の維持管理や利活用の工夫、活動の効果やキーパーソンなどを執筆頂いたものです。

- 編集：「小さな自然再生」研究会
- 企画・構成：吉富友恭 東京学芸大学環境教育センター
- デザイン：本間由佳 明星大学 デザイン学部 デザイン学科
- 発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- 発行年月：2020 年 3 月

■送付申込受付中 → <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1149.html>

本事例集の印刷製本版の送付をご希望の方は、送料 (250 円) のみご負担頂いた上で、2冊を上限に無料でご提供致します。詳細は上記 URL をご覧ください。

■上記冊子の入手方法 ※PDF 版はこちらから： <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

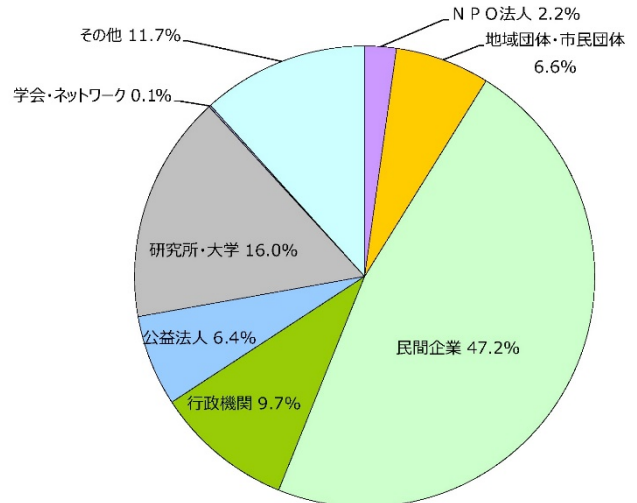
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2022 年 7 月 31 日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：831 名、団体会員数：65 団体)

※6-7 月の新規入会数： 個人会員 2, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>